

2017年3月4日

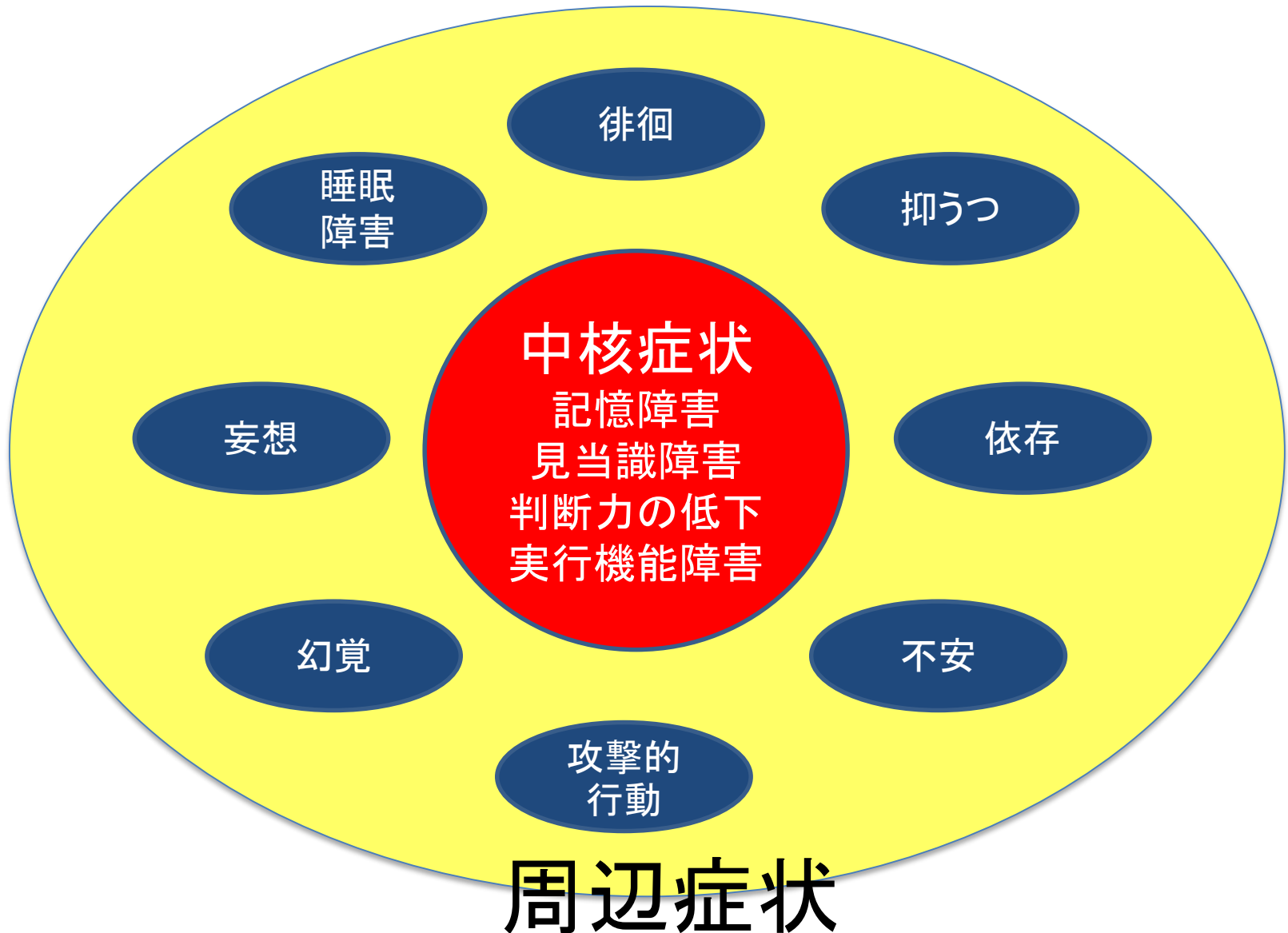
第10回 健康医療開発機構シンポジウム
認知症と向き合う ～健やかに老いるために～

認知症の患者さんと 家族をサポートする漢方

慶應義塾大学環境情報学部・医学部

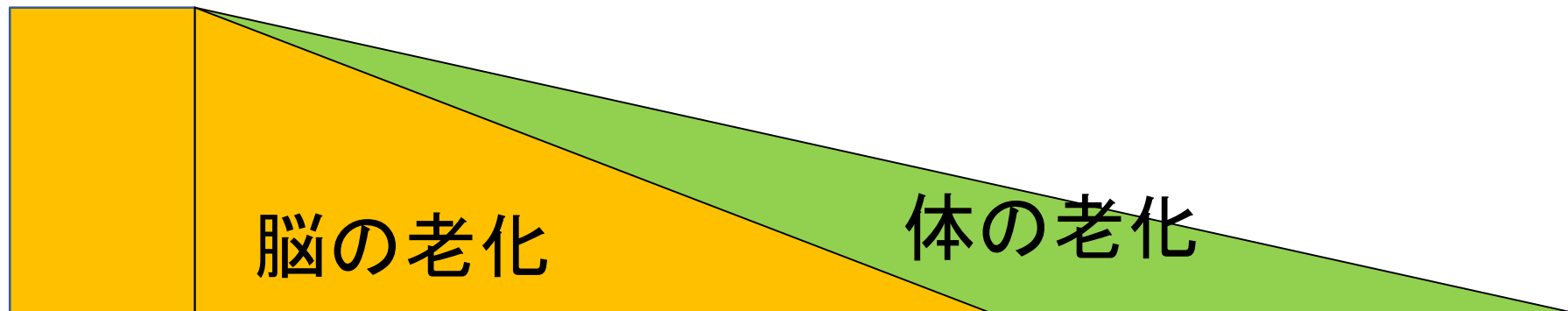
渡辺賢治

認知症の症状

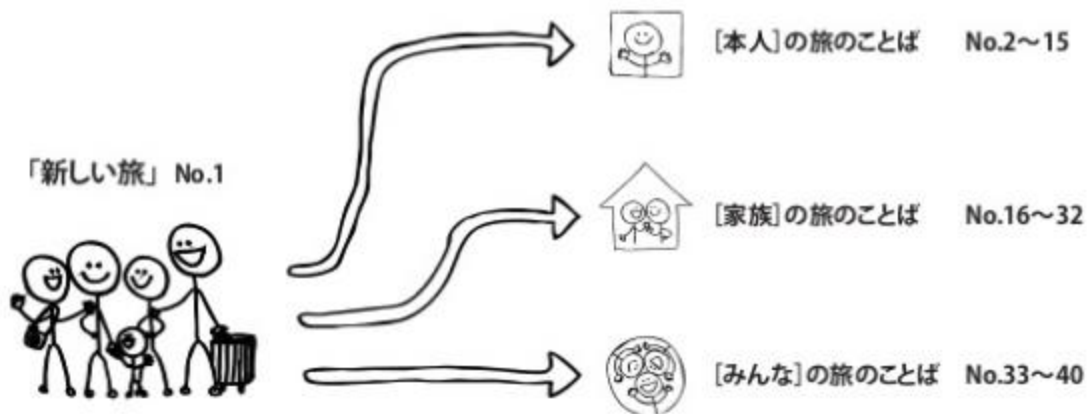


認知症は長い旅

(アルツハイマー型の場合10～15年)



3つの視点と、立場を超えた「協働」の実現へ



漢方の真髄

1. 病気ではなく人を診る医療
2. 逃げない医療
3. あきらめない医療
4. 寄り添う医療

人を診る漢方

- 認知症を治療するわけではない
 - あくまでも**認知症を患った「ひと」**の治療
 - 認知機能・周辺症状に限らない
 - 認知機能・周辺症状も体調次第で上下する
- 心身一如**
- 時には介護する方も治療する
 - 漢方の目的はあくまでも**患者さんと家族が平穏に過ごせる**こと

認知機能改善を期待

- 釣藤散(ちょうとうさん)
- 黄連解毒湯(おうれんげどくとう)
- 当帰芍薬散(とうきしゃくやくさん)
- 八味地黄丸(はちみじおうがん)
- 牛車腎気丸(ごしゃじんきがん)

症 例 1

- 80歳女性
- 関節リウマチのため47歳から漢方治療（大防風湯など）を継続していた
- 関節リウマチは落ち着いている
- 72歳時転倒し、腰痛を訴えたため牛車腎気丸を処方
- 73歳頃より被害妄想が出てきて、隣人とトラブルようになった（一人暮らしであった）
- 隣人がいつも自分を監視しているように思い込んでいて、庭のものを盗まれたという

症 例 1

- 74歳時、認知症外来を受診し、ドネペジルを開始
- 75歳時 有料老人ホームに入居
- 79歳時 ドネペジルを中止し、メマンチンを開始したところ、転倒するようになり、4か月でメマンチンも中止
- メマンチンを中止したところ、少し怒りっぽくなったが、家族と相談し、怒りは生きる力にもなっているとのことで、牛車腎気丸で継続
- 長年漢方を飲んでいて、極めて元気。とにかく明るい。転倒して傷を縫っても骨折には至らない

周辺症状

- 抑肝散(よくかんさん)
- 抑肝散加陳皮半夏(かちんぴはんげ)
- 香蘇散(こうそさん)
- 加味逍遙散(かみしょうようさん)

症 例 2

- 76歳男性 会社経営者 現役で働いている
- 4年前から怒りやすくなり、会社でよく怒鳴るようになった
- 1年前から会社のお金で不動産やオークションで高価な美術品を買うようになった
- 会社役員である長女から相談を受け、ご本人に受診してもらった

症 例 2

- 体力は非常にある
- 話していても一見穏やかであるが、家族が口を挟むと強い口調となる
- 抑肝散を処方
- 飲んだ翌日から穏やかになり、オークションなどを止めるようにという家族の助言も聞くようになった

症 例 3

- 79歳女性
- 66歳頃より物忘れが激しくなり、いろいろなことをごまかすようになった
- 68歳頃からの3年間は徘徊するようになり、家人が探しに出ることが多かった
- ここ2年ほど会話もつなげなくなり、寝ていることが多い
- 2か月前から食欲がなく、食べ物を口に持って行っても口を開かなくなったということで漢方外来受診

症 例 3

- 身長はかつて158cmであった。体重は測定できないが、痩せており、筋肉がほとんどない
- 食欲改善を目的に四君子湯を処方 お湯に溶かして喉が渴いた時にストローで飲むようにした
- 徐々に食欲が増して食べられるようになった
- 3か月後、見た目にも少し体重が増えてきた
- そのまま四君子湯を継続し、1年経つが小康状態である

漢方は認知症の長い旅を支える道具

- 認知機能が落ちても尊厳を重んじる
- すべてを認知症のせいにならないで
- 身体の不調が心の不調に直結
- 家族で悩まずまわりに相談

その中の一つに漢方の医者もいることを思い出してください

